

文化財保護不適切事案検証会議 第3回概要

1 第3回会議概要

(1) 開催日時

令和2年12月7日（月） 13:30～15:15

(2) 議題

ア 制度的課題について

入札制度の現状 等

イ 検証結果（素案）について

とりまとめ案

(3) 会議での主な意見

- ・「滋賀県の文化財は、滋賀県で守る」という部分は欲しい。文化財は100年仕事なので、すそ野を広げる、若い方を育成することに滋賀県が力を注ぐことを打ち出してほしい。
- ・制度的な課題から、今回の根本的な解決に繋がる部分はない。入札制度ではなく、組織的な課題に焦点を当てる方がよい。
- ・予定価格の事前公表は、職員に対する予定価格を探る行為などの不正行為の防止が可能になる一方で、談合が一層容易に行われる可能性があるとしてされており、本末転倒になる可能性もある。
- ・風通しがよくないと不正につながる。不正を起こしたくなる、起こってしまう環境を作らないことが大事。
- ・過去から将来に向けて、どういう組織体制が望まれるのかを含めて考えた方がよい。
- ・解決策について、焦点を絞り、大きな方向性がわかるようなまとめた方がよい。
- ・係長に仕事が一極集中しすぎていることが大きな問題。情報共有し、部下とも、コミュニケーションをとって組織を回していなかったところが非常に問題だったのではないかと。多くの仕事を抱えていても、コミュニケーションが取れていて、係長がフォローできないところは他の部下がいる。係長の上の上司も、係長がフォローできない部分を手当するといった、成熟した組織でなければならない。
- ・以前から同じことを言っていて、結局、これまでの取組がしっかりとできていないことにつきる。施策をうつなら、その施策が効いたことがわかる検証を（目に見える数値）用意しておかないといけない
- ・その現象に至った本当の原因がどこにあるのかを突きつめることが必要

2 今後の予定

令和2年

12月24日 第4回検証会議（検証結果最終案）